

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

A. コースワークの充実・強化

①人材養成目的に沿った科目構成の整理

《医療系》

●千葉大学看護学研究科看護学専攻

「専門看護師育成・強化プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

CNS 研修を新たに取り入れたため、研修先との調整や英文の書類提出、研修生の英語力の強化が必要であり、在職している研修生が対応することに困難を生じた。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

- ・海外の医療施設において研修を行うため、個人情報保護や感染予防等の観点から英文で求められる多数の書類を短期間に準備することが必要であり、在職中の研修生には大きな負担となった。
- ・海外研修では、臨床の場で行われている高度な看護実践を理解する必要があることに加え、受講生が専門性に合わせて研修の場を選択したり、勤務の都合等を考慮した個別のスケジュールで活動したりするため、英語によるコミュニケーション能力を高める必要があった。研修生の英語力には個人差があり、在職しながら英語力を高めることには困難のある場合もあった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

- ・GP で雇用していた専任教員が海外の医療施設との間に入り、何度も調整を行った。GP 期間が終了後はこれらの経験を踏まえ、入学時から情報提供が行えるように書類を準備するとともに、本看護学研究科側の窓口教員を決めて調整を行っている。
- ・平成 20 年度は、受講生と他の大学院生や教員からも希望を募り、1 年間に渡り Native 講師による English Class を開講した。加えて、千葉大学客員教授による 10 回に渡る「Advanced Clinical Nurse Specialist」の講義を開講した。平成 21 年度は、受講生と引率教員に対し研修前の 5 月から 7 月に 20 回の Native 講師による English Class を開講すると共に、Web 上での自己学習を可能にした。これらにより、研修生は英語でのコミュニケーションに問題は生じなかった。